

暮らしを エコ ニュース

待機電力を減らそう

電化製品を使っていないときに消費する電力のことを待機時消費電力(待機電力)といいます。

近年、節電に対する意識が高まり、家庭でもさまざまな節電対策が行われていると思いますが、この待機電力については、言葉は知っていても具体的な対策をしていない人が多いのではないのでしょうか。

なぜ待機電力が生じるのか

リモコンで操作することができる電化製品は、主電源が入っていると、製品本体がリモコンからの操作信号をいつ受けてもいいように、指示待ち状態を保っているため、電力を消費します。また、メモリー・時計・液晶表示装置などの表示機能が内蔵されている電化製品は、コンセントにプラグを差し込んでいるだけでも電力を消費します。

待機電力を少なくするために

家庭で1年間に消費する電力の約5%が待機電力であるといわれています。中でも、ガス温水機器・テレビ・冷暖房兼用エアコンは多くの待機電力を消費します。

家庭にある電化製品の使い方を見直すとともに次の点に注意して、待機電力を減らすよう心掛けましょう。

- 機器を使用していないときはこまめに主電源を切る
- 長時間使わない機器はプラグを抜く
- スイッチ付き電源タップを使い必要な機器だけスイッチを入れる
- 機器を一定時間使用しない場合はオートOFF機能*1を使う
- 機器の充電が終わったときは、充電器のプラグを抜く
- 設定が無効になってしまうため、プラグを抜くことができない場合は、表示OFF機能*2を使う

*1 一定時間使用しないと自動的に電源が切れる機能

*2 電源を切ったときに、時刻などの表示部分を非表示にする機能

※くわしくは環境計画課(☎20-1533)へ。

消費生活相談

Q&A

水回りの修理 契約前に確認を

Q 夜中にトイレが詰まって困り、インターネットで検索した24時間出張サービスの業者に修理を依頼したところ、高額な費用を請求され、仕方なく支払いました。なぜ高額になったのでしょうか。

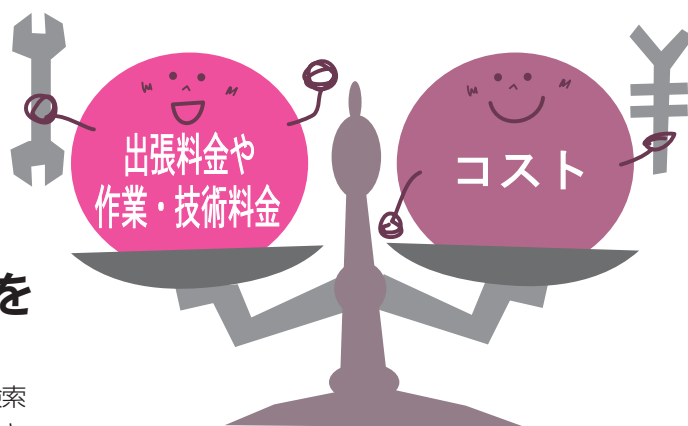
A 水漏れや詰まりを24時間体制で修理してくれる出張サービスは便利ですが、一般的な事業者の営業時間外にも対応するため、料金が割高に設定されているようです。トラブルを防ぐためには次の点に注意しましょう。

まずは建物の管理会社に確認する

マンションやアパートなどでは、建物の管理会社や販売会社があらかじめメンテナンス業者と提携契約を結んでいる場合もあります。依頼する前に、建物の管理会社や販売会社に確認しましょう。

依頼する前に料金をしっかり確認する

出張料金や作業・技術料金などは業者によって異なります。広告だけを見て低料金で済むと判断せず、業者に電話して不具合の状況を伝え、見積もりを取りましょう。また、キャ



ンセル料が発生するか、来訪しただけでも費用が掛かるか、現場を見て見積もりと違う場合はどうなるのかなど、事前にきちんと確認しておきましょう。いくつかの業者に問い合わせ、内容を比較するとよいでしょう。

契約する時に料金を再度確認する

業者を決定し契約するときに、料金について再度確認しましょう。現場確認後、見積もりと違う場合には説明を受け、金額に納得した上で作業に入ってもらいましょう。

依頼した内容と異なる工事を勧められてもすぐに決めない

修理を依頼した業者から、リフォームなど当初考えていたものと内容が大きく異なる修理や工事を勧められることがあります。まずは応急処置を求め、家族で話し合うなどして、安易に契約をしないようにしましょう。

※くわしくは消費生活センター(☎23-1161)へ。